

平成23年度第1回福井県男女共同参画審議会開催結果

1 開催日時

平成23年11月8日(火) 13:30~15:30

2 開催場所

県庁7階特別会議室

3 出席者

(1) 委員

9名(高田会長、石森委員、遠藤委員、吉川委員、新道委員、林委員、増永委員、室谷委員、和多田委員)
【欠席】(塚本委員)

(2) 事務局

林総務部長、男女参画・県民活動課長、男女参画・県民活動課員、男女共同参画推進会議幹事課員、生活学習館職員

4 主な意見

議題1 男女共同参画施策の推進状況について

個別事業の内容についての質問のため、省略

議題2 第2次福井県男女共同参画計画の策定について

【計画】

- ・ 計画に文句はない。実行が大事。
- ・ 計画に異存はない。よくできた計画だがインパクトあるものがほしい。例えば、女性管理職の割合が高い企業や、企業子宝率の高い企業を優遇したらどうか。
- ・ 計画に書いてあることは全てよいが、県職員数人で実施するのは無理。市町が拠点をおき、県が指導するのはどうか。

【目標設定、検証】

- ・ 実施事項を決めたら検証すべき。施策効果が出るには結果を数字で表すべき。
- ・ 目標設定すると煽られて頑張るが、数値は下がることもあり、余り捉われない方がよい。
- ・ 目標達成を目指し施策を行うことで、男女共同参画の認識の広まりを期待して目標設定していると思う。
- ・ 目標は必要。
- ・ 審議会の女性委員の割合等の指標はあるが、それ以外に社会全体の男女共同参画の進捗が分かるような指標がほしい。計画実施により、男女共同参画の動きが見えることが大事。
- ・ 男性だ、女性だ、と言わなくて済むまで、目標を持ち、進めていく。

【仕事と家庭の調和】

- ・ ワークライフバランスが取れた状況はどういう状況か、具体的イメージを示さないと分からない。「ワークライフバランス」といっても世代ごとにイメージが違う。子育て真っ盛りの時期に、仕事と家庭が半分半分では無理で、子育て8に対し、仕事2ということもある。
ワークライフバランスを進めるには、個人の意識だけでは難しい。
- ・ ワークライフバランスは経済の流れとあわないとうまくいかない。社会情勢や年齢など色々要素があって、

なかなか難しい。

- ・ ワークライフバランスは、つきるところ夫婦の会話ということになる。100%女性が家事をしていても、夫婦間でそれが了解されていれば、ワークライフバランスは取れているということ。
ワークライフバランスというと、男性がもっと家庭に入れ、と説教されているように感じる人が多いが、そうではない。
- ・ ワークライフバランスは抽象的で姿が見えないところがあるため、ポイントを絞るといい。例えば「企業子宝率調査」はすごくいい。
- ・ 最終的には、幸せを感じているかどうかの問題である。
- ・ 企業子宝率調査はおもしろい。
- ・ 残業のため家庭のことができないという男はだめ、段取りすればできるはず。できないのは、家庭のことをしようと思っていないから。残業せず早く帰り、家のことをやるという風土づくりが必要。
- ・ ワークライフバランスを進める企業をいかに増やすか。
- ・ 増やすのは難しくない。掘り出していけばいい。他がやっていると、我もとなる。
- ・ 労働分野は要の分野。女性が働き者なのはいいが余裕がない。余裕を作るためどうするか。

【男性の家事、教育】

- ・ 「家事チャレンジ検定」は面白い。先進的でいい。ただ「家事」では引くのでネーミングを考えてほしい。実技はイベントの中でやるといい。イベントに妻と子供がいて「がんばってね」と応援する構図がよい。
- ・ 女性は料理を作る男性に愛情を感じるという。「福井の男は週2日料理を作る」等県で決めたらどうか。男性に週2日の料理を義務付けし、しないと恥ずかしいと思わせるくらいでないと。
- ・ チャレンジツアー（畑で野菜を収穫し、それを父子で料理して一緒に食べ、後片付けと掃除をする等、家事全般を体験）はいいと思う。
- ・ 「とにかくやる」というアプローチは面白いが、内容が家事や介護、料理なので小手先の印象を受ける。今後計画を実施する中で、じっくり取り組んでほしい。
- ・ 小手先のと感じたのは、男性が家庭回帰しようとする、年休取得や時間外労働の削減等、企業の風土づくりが大事であるが、それがこの資料では見えないため。取得し易い職場風土について施策を練ってほしい。
- ・ 我々の年代の夫は生活習慣もあり、家事ができない。高齢化社会であり、夫も妻が亡くなったら大変。小中学生に料理などの教育をすることが大事。
- ・ 生徒名簿も男女混合となり、家庭科も行う等学校での取り組みは進んでいる。根付くには、家庭や地域での取り組みも大事。
- ・ 地域でも取り組みを行い「家でもやってね」と語りかけているが、どこかで途切れている。
- ・ 地域や家庭で実際に根付くといい。

【ふくい女性ネット】

- ・ ふくい女性ネットでは小規模企業で活躍する人が目立ち、目も外を向いている。一方、大企業の方は外に目が向いていない面もある。ネットに大企業から各社数人ずつ参加してもらい、互いに交流していくと、小企業の人も大企業の人にもメリットがある。

【その他】

- ・ 意識調査等は市を通じたらどうか。
- ・ 女性にゆとりをもたせてあげることも大事。
- ・ 余裕がない状態で「管理職になってくれ」と言われても無理。必死の思いで家族や子供のことを考えて、したくない決断（管理職をあきらめる）をくだしているのかもしれない。